

C地区伐採協議 (淀川河川公園大山崎地区)

山崎管内河川レンジャー
東 親志

ー C地区の竹林伐採状況についてー

■竹林伐採目的

C地区（小畑川沿い）におけるヒメボタルの生息環境の保全のため、年間500本程度の竹の伐採を行うとともに、発芽するタケノコや草本類の伐採など維持管理を行う。

■竹林伐採状況

1. 竹林伐採計画の説明

8月2日：山崎出張所 鉦橋所長へ竹林伐採計画について説明。

2. 伐採地の踏査

8月2日：淀川河川公園大山崎地区内の小畑川沿いにある竹林（通称C地区）の現地踏査。

- ・竹林（マダケ）の伐採箇所の現状把握、伐採エリアの設定。

3. 伐採準備

8月3～4日：伐採する竹へのマーキング。

4. 伐採箇所へのアプローチ道の開削、竹林伐採

8月17日：アプローチ道の開削、伐採作業。

- ・緊急道路から竹林内へ侵入および伐採竹の運び出しのため、林縁部のマダケや草本を伐採した。
- ・マーキングされた竹の伐採開始。



マーキング状況



伐採した枝葉の集積予定地（エコスタック）

8月18～19、22～26、28日：伐採作業、枝葉払い、4～5m程度の長さ揃える。
8月28日：竹林で伐採作業中にスズメバチに遭遇したため、作業中止。300本伐採。



竹林伐採状況（整備途中）



伐採した竹（マダケ：約300本）

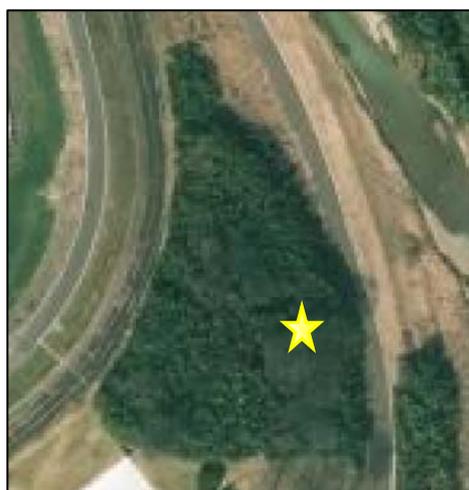
9月3日：スズメバチの巣を特定。



スズメバチの巣周辺状況



スズメバチの巣



スズメバチの巣確認場所



スズメバチの巣

5. 今後の予定

9月9日 伐採竹の搬出作業開始。(約300本)

9月16日 <レンジャー活動>地域住民等参加による伐採竹の搬出、竹林内整備作業。
スズメバチの活動が低下する11月頃から、残り200本の竹林の伐採と整備を再開する。

6. 伐採地の維持管理

C地区のマダケ伐採地は、ヒメボタルの生息環境の保全のため、適切な間伐によりマダケの育成を行う。タケノコが出る4月には、タケノコの伐採を行い、定期的に林床に発芽する草本類の伐採を行う。

また、「注意喚起看板」を設置し、竹林の維持管理地であることを明示する。

樹林伐採地につき注意

本区域では、桂川の河道維持管理のため、樹林（竹林）を伐採しています。

伐採した樹木・竹は、昆虫やトカゲなどの小動物のすみかになるよう積み上げていますので、林内に立ち入りの際には、十分に注意して下さい。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡下さい。

国土交通省 近畿地方整備局
淀川河川事務所山崎出張所
電話：072-669-1916

注意喚起看板例

「エコスタック」

名称	伐採木・枯損木の有効活用による生物の生息環境整備（エコスタック）
目的	植物発生材を積上げて、生物の生息環境として活用することで、植物資源の再利用を進める。
考え方	必要に応じて植物発生材を玉切りや結束し、林床内や植栽地に体積させ、動物の生息環境として活用する方法である。これにより、リサイクルの促進とともに、生態系の保全、有機養分の補給等の効果が期待される。
イメージ	

出典：「公共施設における緑地等の整備及びその管理、並びに市民参加型自然環境調査手引き書」

(環境省 平成21年)



ハツ場ダム
工事事務所
Welcome to YANBA net!

●ハツ場ダムの役割について
●事業の経緯
●地域とハツ場ダム
●環境への取り組み
●イベントに参加してみよう

●工事実態公開
●入札情報
●記者発表

TOP > 環境への取り組み > ハツ場ダムの環境保全の取り組み > エコスタックの設置

環境への取り組み

エコスタックの設置

工事による木の伐採は林の中に大きな開放した空間を作ってしまう。そうした場所は隠れ場がないため、小動物は利用できません。そこで、工事による伐採の影響を緩和するため、工事区域の空き地に丸太積み等のエコスタックを設置して小動物の隠れ家や生活の場を造りました。

設置されたエコスタック

この写真は実際に工事現場に設置された丸太積みエコスタックです。一見丸太や廃材が積み上げられているだけです。看板を設置することで生きものの『生活の場』という位置付けを明確にしています。

どんな生き物が来るの？

設置してから約1年がたったエコスタックでは、多くの生きものが集まってきました。写真のようにカミキリムシが集まり、丸太に卵を産みに来ていました。虫たちが来ることによって、それらを食べるトカゲやクモもやってきました。

 カナヘビ

 ルリボシカミキリ

 ハンノアオカミキリ

出典：国交省ハツ場ダム工事事務所HP



< C地区伐採方針 > 平成 26 年策定

■伐採の実施

ヒメボタルの生息環境保全を踏まえ
(順応的管理：検証しながら)

★基本的事項

- ・エノキ、ムクノキの大木は残す
- ・一斉に伐採せず、検証しながら実施

当面、このエリア限定で、以下の伐採を試み、様子を見る。

1.伐採(抜根)

竹の根などすべて抜いた伐採の実施

2.50 c m程度残し伐採

環境の急激な変化を緩和させるため
ある程度の高さで残す

伐採の実施
(緊急道路沿い 3 m幅程度)

伐採の実施



図-1 竹林の模式断面図